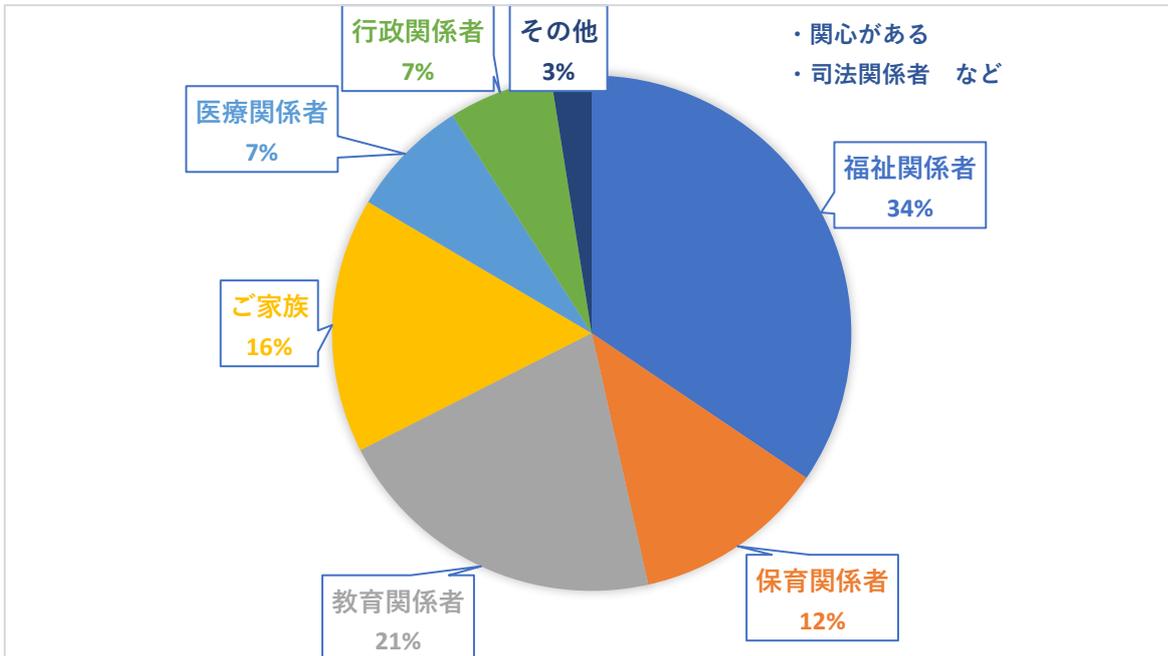
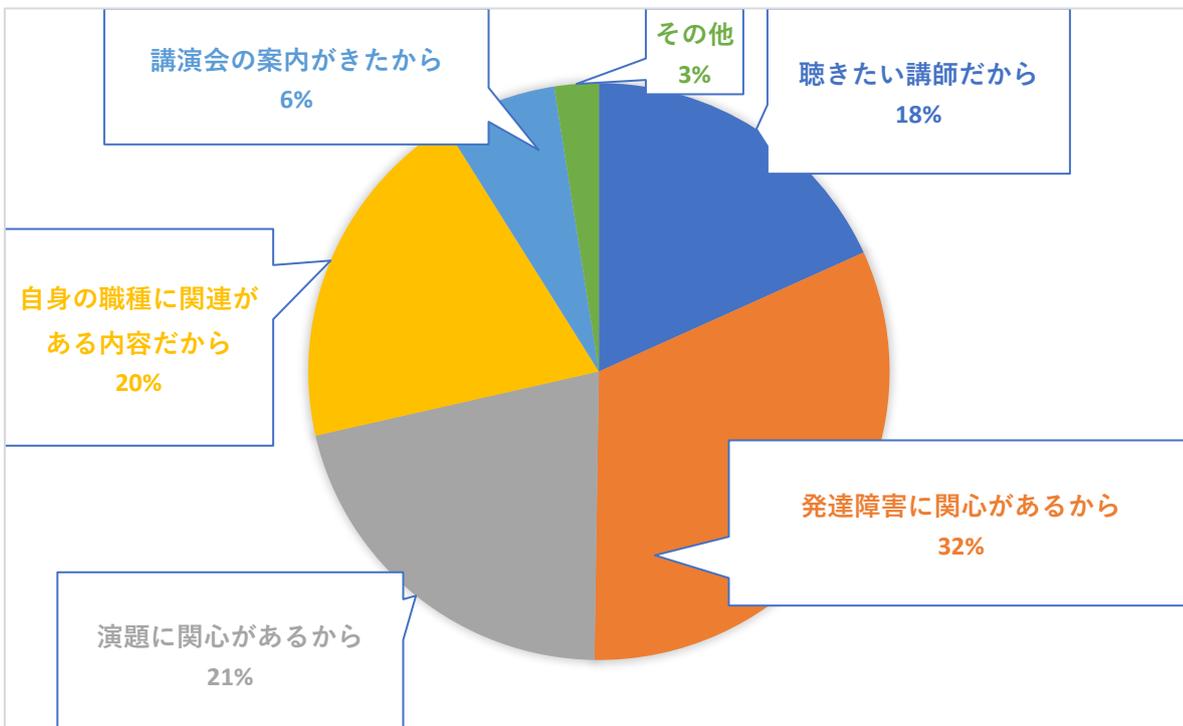


令和6年度共催講演会アンケート結果

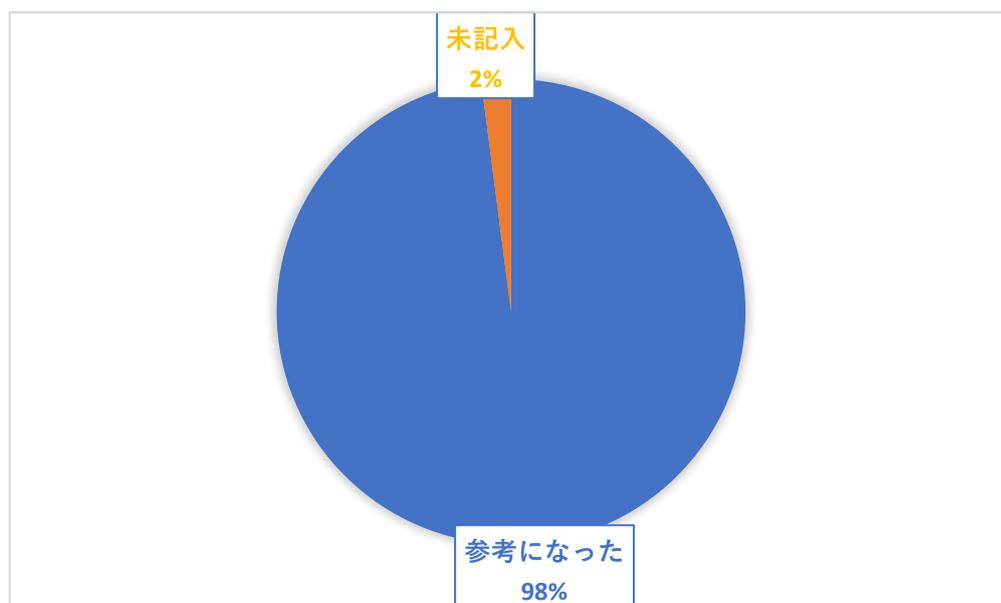
【1.所属について】 ※対面開催分とオンデマンド開催分を合算



【2.講演会の参加理由】 ※対面開催分とオンデマンド開催分を合算



【3.今回の講演会はいかがでしたか】※対面開催分とオンデマンド開催分を合算



【感想・対面開催実施分】

講演がわかりやすく具体的な話を交えてくださったので、行動支援の具体例や発達の特性について、行動支援の内容など、勉強になった。今日から業務に役立てたい、実践したい。（業務に携わっている方、携わっていない方、業種を問わず感想有り）（他 30 名）

強度行動障害の研修で先生の講義を受けさせていただき、再度、勉強させていただきたく、講演に参加しました。

先生の講義を受け、当時、担当する利用者へお聞きしたことを実践しました。時間をかけながらできなかったことができるようになってきました。（他 1 名）

職務上、色々な障害を持った人に対し支援することが多く、少しでも障害特性を学びたかった。講演の中で支援アプローチを学べて良かった。

講演会に出席するのは初めてでした。親でもできる対応があり、講演を聴かせてもらい、本人の現状を肯定していこうと思いました。

「発達障害児」への対応はどんな人に対しても当てはまるように思います。「罰的な叱り方」や「シェイピング」が「ユニバーサル化」していける世の中になってほしいと思います。

仕事している中で「強化」を支援に取り入れ、行動を正そうとしているが、「直後」に評価するように心がけているものの、頻繁に評価していないので、今後、心がけていこうと思いました。頻繁にほめることが本人のやる気につながるということがわかり、現場で大切にしていきたいと思った。（他 4 名）

ポジティブ支援方法など問題行動へのアプローチやケース別の具体的なアプローチなどをどう補えばいいか、トークンエコノミーやシェイピングはもっとお聞きしたかった。今後も学びたいと思いました。

「現状を○にする」すごく良い言葉を聞くことが出来、良かったです。障害があるないに関わらず、どの方にも通ずるものだと感じました。

「×」→「○」でなく、現状を「○」と捉え、支援する方々に言語化して伝えていく事で相手の困り感が軽減できるように心がけることや本人のよい人生になる様にの視点を大切にすることなどを取り入れ、仕事の質を高めていきたいと感じました。(他5名)

発達障害の行動、特性への理解が深まった。シェイピングの考え方はとても参考になりました。(他2名)

本日の講演をお聞きし、大久保賢一先生の著作も読んでみようと思いました。

自閉症の講演があれば、今後も参加したいです。

学齢が小さいと関わる大人自身の価値観が狭ければせまいほど“問題行動”と捉えてしまうのでは、と振り返りました。スモールステップであることで子ども自身の自己肯定感につながるように関わっていきたいです。

時間が短かった。もっと時間が欲しいと思いました。まだまだ先生の話をお聞きしたかった。(他2名)

発達障害への理解、関心が進んだとはいえ、支援の現場、家庭、教育、地域の中ではまだまだ標準化されていない現状でもあると思います。今後もこの地域に足を運んでいただき、ご教授いただきたく願っています。(他1名)

「見方を変える」リフレーミングにチャレンジし、「発達障害」を捉え直し、支援していきたいと思います。

定型発達の子どもさん達に目標設定する時、大きな間違いをしてしまうのではと思われることが多々ある様に思った。できることから…では実態を捉える所で失敗する。低い目標になってしまうのを許してしまうなど、難しいと思いました。行動支援をする際の実態把握、無気力や意欲をさげている子ども達の本当の目標に悩みます。支援者としてじっくり悩みたいと思います。

考え方や捉え方を変えることで支援する側もされる側もポジティブに考えられる事を知って学んだ。

ポジティブ支援の大切さについて学べてよかったです。

支援者側が問題を起こす方に対して3要件からとらえ（※3要件は講演内で以下のように説明あり
①注目をあつめるため②要求を通すため③逃避）検討してから、本人にぶつかっていかないといけない
んだと考えることの大切さを改めて実感しました。

アメとアメなし アメとムチはダメ しかし、アメばかりでは人生を歩む道にはならない。父として、母
として我が子の成長を目指す道であるようにサポートしていきたい。

私たち支援者側の視点をリフレーミングして、現状を肯定的に捉え、特性をその人の強みにしたり、これ
からの「◎」を目指し、見逃さず支援し、ともに豊かに生きるということは私が日々、目標にしている
ので、自分のあり方を見つめる良い機会となりました。

心のもち方、どういう姿勢で取り組むか改めて、支援に対するスイッチが入りました。

【運営等について】

部屋が縦長なので真ん中の列は動画やパワポの全画面が見えませんでした。

換気扇を回すや会場の空気に入れ替えを行っていただくことで感染対策の観点からも安心だと思うので
今後、検討していただきたい。

大久保先生に個別相談とかできればうれしかったです。

【感想・オンデマンド実施分】

とても学びの多い内容で、今後の支援に役立てていきたいと思います。(他 22名)

ポジティブ行動支援の講演をきいて、そういうことなのかと知り、日頃の支援を振り返ると違ったこ
とをしてしまっていた、こうした方が良いのかと感心する話がたくさんありました。実践してみたいと
も思いました。(他 14名)

人のものの見方が、いかに人それぞれかというのが、色などの例も使って体験しながら感じる事が出
来ました。ほめるだけでいいのか、罰的な対応も必要なのは、といった質問を受けることもあるの
で、今回の先生のお話を参考に返答できるようになりたいと思いました。(他 10名)

日頃の実践にいかせる内容でした。目の前の利用者の問題行動に対して、見方・考え方を変えることが
大切だと思いました。最初できない部分に着目するのではなく、まず、「現状を良し(○)」とすること
で支援後に振り返った時、「最初は×だったね」という考え方をできるようになれば…と思いまし
た。(他 9名)

発達障害についての基本的なことや、問題行動の背景、その対処の仕方など、具体的にお話くださり本
当に興味深く拝見しました。特別支援学級を担任し、目の前の子どもたちの対応に毎日苦悩する中

で、明日からの支援の参考になることがたくさん詰め込まれていました。講演を聴かせていただいて良かったと心から思います。(他 8名)

注目行動を起こす子どもに対し、反応しないことで対応することが多いですが、結局最後は反応してしまいます。先生が言われたように、悪い行動をしているときの反応を弱めそれ以外のところでたくさん反応し回数を変えずに関われるようにしようと思いました。でもなにより、子どもの現状を知る中で、何ができて何ができないか、さらにどんな支援があればできるまで考えて対策を練ることが大事だと改めて感じました。そして、できない部分ばかり注目しないことも大切だと思いました。(他 7名)

講義の中で「時間が無いので」と、端折ったところもあったので、そういった所もまた伺えると嬉しいです。「飴と飴なし」が良いと思いました。みんな(自分も含めて)、飴でいっぱい的人生になると良いなあと思いました。(他 5名)

大久保先生のご講演は具体例や臨床動画など、非常にわかりやすく整理していただき、自分も頭の中を整理して拝聴できました。また、お話の内容やしゃべり方が流ちょう、なめらかで聞きやすかったです。ありがとうございました。ピンポイントで知りたい内容、特にシェイピング技法が知りたかったです。(他 5名)

何年前にも大久保先生のご講演を聞かせていただいて、機会があればぜひまたと思っていました。どのお話も分かりやすく、日常の子どもたちとの生活や自分の保育を思い浮かべながら聞かせていただきました。子どもの成長や頑張っていることを褒められる保育者でありたいと思います。それが支援者だというお話が印象に残りました。(他 4名)

トークンエコノミーについての利点を教えてもらえてとてもシッカリきました。きっとたくさん時間があればもっと理解が深まったかと思いますが、セルフ・マネジメントへの移行についても詳しく聞きたかったです。色々な例やビデオ、大久保先生の体験談を交えてくださり、大変聞きやすい講演でした。(他 2名)

強度行動障害の研修には何度か参加させていただいておりますが、先生のお話は何回でも拝聴でき、日々の対応への振り返りだけではなく、自身の子育てなどでも生かしていける内容だと感じています。(他 2名)

現在、通級指導教室の担当として発達障害に関わる児童と授業をしていますが、その場でのフィードバックは1対1だからこそ手厚くできるが、通常の学級で、20人近くの子供達がいる中ではなかなか難しいところがあると思いました。トークン・エコノミーについては、通級と学級、家庭で共有しながら、行動支援ができそうだったのもので、試してみたいと思います。ADHDのお子さんは特に、叱られる(ムチを受ける)経験が多いと思うので、最後の話にあった、「その子の生活をアメでいっぱいにするための支援」はとても大切なことだと感じました。通常学級と通級で連携しながら、アメでいっば

いになるような生活を子どもたちには送ってもらいたいので、そのための環境整備や、行動支援をできるようにしていきたいです。大変聞きやすく、参考になるお話でした。ありがとうございました。

SSWとして学校に勤務していると、教員から発達系課題のある生徒の話を聞きます。SSWは過去に福祉職に従事した経験があっても、発達障害について知らないことが多く、教員と一緒に支援や対応を考えていく上で今回の講演内容はとても役に立つと思いました。共通の目的、一貫性をもった対応を築いていく必要があるからです。今後も大久保先生の研修を継続して行って頂けたら幸いです。

情緒学級に在籍していた息子は中学校の時に、「情緒学級に在籍しているが知的に問題ないから普通学級のカリキュラムでやっている」ということを卒業2週間前に聞いて頭をハンマーで殴られたような衝撃を受けました。おかげさまで息子は闇落ちし無気力、先生は信用できない、といった二次障害のような状態に陥りました。今回の講演会を聞いて、中学校の先生があまりに発達障害に理解がなく、情けなく思いました。和歌山県内のすべての先生に、講演会を聞いてもらい、自分たちの指導の仕方を深く反省してもらいたいです。

息子が軽度の自閉症ですが、発達障害は少数派というだけだという思いを持っています。今回の講演でそのことをおっしゃっていたので、とても元気ももらえた気がします。引っ込み思案、明るくないことは何が悪いのでしょうか？というところで、大きく頷いてしまいました。今後、「自閉症ですが何か問題ありますか？」と堂々と言える世の中になることを望みます。私は中学校で特別支援教育支援員をしていますが、学校でも今回のような講演をしていただきたいです。

(以上、アンケート結果のうち同一意見を集約)